

今はこんな様子だよ。



# 工事の げんば 現場より

## 4月1週目

令和2年度より半解体修理を始めた旧東慶寺仏殿では、大工さんによる屋根の骨組みの組立が済み、続いて新しい茅葺屋根を葺く作業に入るため屋根葺き職人さんにバトンタッチ。下地の骨組みを組んだら、続いて今回の茅葺屋根の特徴の一つ、一番手間のかかる作業、「軒蛇腹」の組立を行いました。太さの揃った篠竹を節を揃え並べ銅線で縫い付けて軒先に止めて作られるもので、整然と並んだ竹は下から見上げるととても美しい、他ではなかなか見られない手の込んだ仕事です。

### ①小屋組み

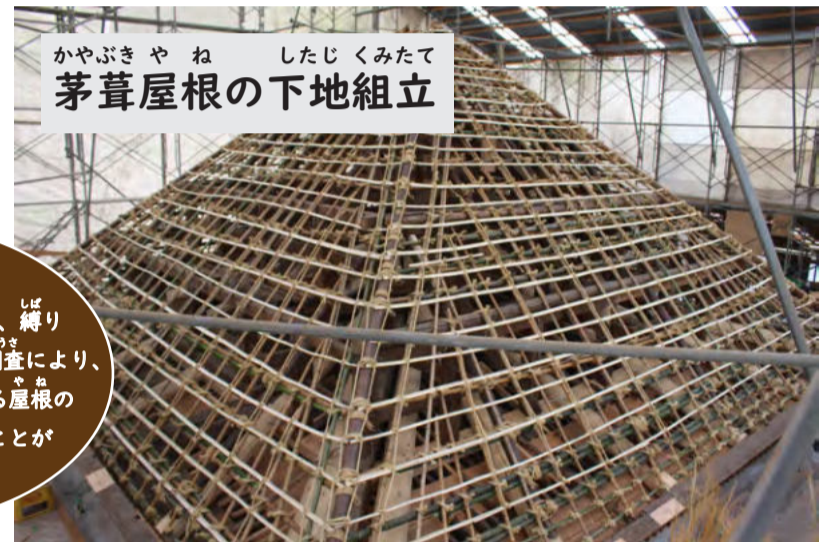
屋根を支える大きな骨組み。屋根の姿は昔と違う形だったと絵図などから推定されていましたが、今回調査でそれらしい痕跡が確認されています

### ⑦瓦巻

痛鋒形に積んだ茅束の上に、銅板・杉皮を被せ、その上に瓦を並べて押さえています

### ⑥茅葺

ススキなどの草を積み重ね、縛り止めて作った屋根。解体時の調査により、神奈川県央域で行われている屋根の葺き方が用いられていることがわかりました



かやぶき やね したじ くみたちて  
茅葺屋根の下地組立

▲竹や木を縦横に籠状に組み上げて作られた「屋根下地」。材料の使い方や縄の結び方にも地域色があります。

### ②野垂木 <タテ>

屋根面の基盤となる材(合掌材)に相当する

### ⑤エツリ竹 <ヨコ>

割った竹を使用

※縄の結び目は省略して描いています。

### ③屋中 <ヨコ>

竹を使用(葺替前はなぜか一部が木)

### ④垂木 <タテ>

竹を使用(丸のまま)



▲篠竹は一本ずつ磨いて皮や汚れを落とし、節を揃えて並べられるように丁寧に切り揃えて準備しました。

篠竹の軒蛇腹  
とても珍しいけど、実は例の場所にも・・・



ここ！



きたかまくら とうけいじけいだい しょうろう  
北鎌倉の東慶寺境内の鐘楼

